

第7回埼玉県新型感染症専門家会議 概要

1. 日時：令和2年5月27日（水）15：00～17：30

2. 会場：危機管理防災センター本部会議室

3. 委員（敬称略 五十音順）

岡部 信彦	川崎市健康安全研究所 所長
金井 忠男	埼玉県医師会 会長
川名 明彦	防衛医科大学校 教授
坂木 晴世	国立病院機構西埼玉中央病院専門看護師
松田 久美子	埼玉県看護協会 会長
光武 耕太郎	埼玉医科大学国際医療センター 教授

4. 県側参加者

大野 元裕	知事
山野 均	県民生活部長
森尾 博之	危機管理防災部長
山崎 達也	福祉部長
関本 建二	保健医療部長
星 永進	保健医療部 参事
本多 麻夫	保健医療部 参事
阿部 隆	人事委員会事務局長
岸本 剛	衛生研究所 副所長

5. 主な意見

ア 現状の分析・評価

- PCR検査については、手当たり次第検査するということではなく、医師が必要だと思ったケースについてしっかりと検査ができるキャパシティを確保することが重要。
- 抗原検査などPCR検査以外の新しい手法も出てきていることを踏まえ、検査体制を構築していく必要がある。

イ 緊急事態措置の一部緩和等について

- 東京都なども含めて緩和のペースが速いのではないかと懸念はあるが、経済活動も再開しなければならないため、様子を見ながら行うしかない。
- 接触確認アプリについて有効に活用していただきたい。
- 各業界が出しているガイドラインは現実的に実現が難しいのではと思われるものが散見される。
- スポーツジムやヨガスタジオ等でクラスターが発生したのは、運動後3密の状態ですりや会話をしたことが原因だと考えられているため、安心宣言の中にはこういった細かい行動レベルまで入れてもらえると良いのでは。
- 業種ごとのガイドライン作成については、作っても守られないと意味がないのではとの意見もあったが、それぞれの業界が自身で工夫して考えてもらうことに意味がある。
- 消毒液の使用については、本来は詰め替えての使用は行うべきでないため、市場への供給が十分にされてきた段階でしっかりとアナウンスした方が良い。

ウ 県有施設の再開について

- 運動場や公園の中にも集会場など3密が発生するリスクのある施設があるため、その部分についても感染対策を行う必要がある。

エ 保育所・放課後児童クラブの今後の取扱いについて

- 保育所や学校での子供たち同士の密によるクラスターは確認されていない。
- 一方でゼロリスクではないということは強調しておかなければならない。
- 小児科学会、日本小児科医会でもゼロリスクではないが、保育や教育の重要性から再開は必要だとしているため、できるだけ早く感染対策の準備を行い再開すべき。

オ 県職員採用上級試験について

- 当日の体調確認は当日だけではあまり意味がない。
- 受験中は大声を出すことはないため、一定の距離を置くことで感染リスク下げられるのではないか。
- ここでも接触確認アプリを活用していただきたい。
- 個人面接の際に2 m距離をとっているのならば、ビニールシートでの遮蔽は不要ではないか。
- マスクをしての30分面接を行うのは厳しいのではないか。
- 面接での感染対策は不特定多数と話す面接官を守るという意味合いが強い。面接官がしっかりと感染対策を行えば十分ではないか。

カ 縮小期から再拡大期を見据えた確保病床の弾力的な運用について

- どの病院もコロナの流行が一息ついて、空いている病床にどんどん患者を入りたい状況。空床にして確保しておくのではなく、いざという時に空けられることを条件に、一般患者の受入も容認すべき。
- 病床を空けるにも短期間での対応は難しい。転院やゾーニングの確保を踏まえても1週間以上はかかるのではないか。
- 今回は病床を空けるのに2、3週間かかったが、ノウハウが蓄積できたため次回はスムーズに対応できるのではないか。
- 病床を空ける際には各病院長に早めにアナウンスしていただきたい。
- 最初の時と違って、クラスターをしっかり追いかけていけば、いきなり知らないうちに大幅に増えるということはないのではないか。

- 亡くなられている方が多い、50代以上の方は入院を希望する 경우가多いが、20代から40代の方については、家族や子育て等の理由で入院を希望しない方が多い。そういった方について、パルスオキシメーター等でしっかりとモニタリングをして、見守りができる仕組みを構築すれば初期の状況とは違ってくるのではないか。
- 宿泊療養においては、健康観察アプリを導入したことで健康観察が効率化され初期の頃とは大きく改善された。
- PPEの確保については、第2波に備えておくべき。
- 埼玉県は人口当たりの医師数が少ないことを踏まえて、次善の策ではあるがしっかりと自宅療養を安心して行える体制を整える必要がある。